

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の申請主体の名称

福井県および大野市

2 地域再生計画の名称

おくえつ
奥越自然のいやし推進計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成16年度から5年間

4 地域再生計画の意義及び目標

福井県大野市は、県の東部（奥越地域）に位置し、石川県、岐阜県に接した中山間地域で、人口は約3万8千人、全面積の83%が山林で占められた盆地・山岳地帯であるため、四季を通じて気温の変化が激しく、県下有数の豪雪地帯を形成している。

本市では、このような地理的条件を活かした農林業が基幹産業となっており、県内34市町村の中でも、福井市に次いで農業生産額が高い地域であるが、本市の農林業は、生産価格の低迷とコスト増、地域間競争の激化、後継者不足などに直面し、全体的には生産活動が停滞しているといえる。

このような状況を踏まえ、今後は、農林業の持つ自然保護や環境保全機能にも着目しながら、本市独自の特産品の開発や付加価値の高い農林業を目指すとともに、都市との交流を核としたグリーン・ツーリズムなどの受け皿づくりが不可欠であると考えている。また、観光の視点からもその拠点を整備し、さらなる魅力の向上を図るとともに、県境を越えた近隣自治体との連携・交流を一層促進し、広域観光を実現することが強く望まれている。

特に、今回の地域再生の計画地域に設定した六呂師エリアは、北陸の小京都といわれる大野市街地の東部に広がる高原地帯に位置し、豊かな自然を有し、地域固有の食文化や地域の気候、風土、清水を活かした米やサトイモ、イチゴ、ソバ、ナス等の特産品に恵まれているが、現時点では周辺のリゾート地への通過点としての色合いが濃く、今後、地域が一体となって観光誘客を促進していくことが重要な課題となっている。

そこで、本市では、地域の食や自然、農業資源を活用した地域経済の活性化を図るため、平成15年6月に「おおの型食・農業・農村ビジョン～自立と共生を目指して～」を策定し、住民が主体となった地域づくりを念頭に、住民と行政が連携し、快適な環境づくりのための取組みを始めたところである。そして、このビジョンの柱の1つには「農村と都市との共生」を掲げ、都市を主眼に置いた農村交流（グリーン・ツーリズム）の推進や優良農地の保全を通じて、その実現を目指すこととしている。

市内の農業、集落は、高齢化と後継者不足により大きな試練に立たされている一方で、安全で安心できる食料の供給、自然循環機能の発揮による環境に優しい農業や景観の形成という多面的機能の発揮などによって、都市との共生への期待も膨らんでおり、今後、生産者と消費者、都市と農村の連携と共生の視点を持って、農業・農村の展望を開くことが重要であると考えている。

一方、福井県では、厳しい社会経済状況が続く中、福井県の農林水産業を含む産業活性化と雇用の確保は直ちにに取り組むべき最優先の課題であることから、平成15年度に「福井県

経済社会活性化戦略会議」を開催し、県内外の幅広い分野で豊富な経験と知識を持つ委員に本県として早急に取り組むべき実践的な経済戦略や、中長期的な産業政策の方向性などについて提言をいただいた。

この提言の中には、マニフェスト「福井元気宣言」の中で具体的な取組項目の柱の1つに掲げている「福井型学び体験する旅」としてのエコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの推進に関連して、福井の田舎で都会の人がスローライフをエンジョイする「福井型エコ・グリーンツーリズム」の推進に取り組むべきとの意見が盛り込まれた。この提言をもとに、県が平成15年12月に策定した「挑戦（チャレンジ）ふくい - 福井県経済社会活性化プラン - 」の中でも、「福井型エコ・グリーンツーリズム」の推進を具体的施策の1つに掲げ、平成16年度当初予算に必要な事業費を計上したところである。

また、戦略会議の提言を踏まえ、県では平成16年4月に「ふくいブランド推進室」を新設し、庁内各部局を構成メンバーとする「ふくいブランド推進チーム」による連携体制を構築し、県内固有の地域資源（食、自然、産業、歴史・文化等）を組み合わせた「広域的体験メニューづくり」や「特産品づくり」、「エコ・グリーンツーリズム」など、本県の「地域ブランド」として付加価値とストーリー性を高める県内各地域の取組みに対して積極的な支援を行うこととしている。

さらに、県では、本県でのエコ・ツーリズム、グリーン・ツーリズムの取組みを推進するために、平成16年1月に「福井型エコ・グリーンツーリズム推進特区」計画を国に申請し、本年3月24日には計画の認定を受け、構造改革特区制度を活用した推進方策も講じたところである。

今回の計画は、福井県および大野市が共通の課題として掲げている「地域におけるエコ・ツーリズムやグリーン・ツーリズム」を推進するための取組みを一層強化し、計画地域である大野市六呂師エリアにおける農業を核とした地域経済の活性化を目指すものである。

そこで、県が、中山間地域総合整備事業として六呂師エリア南部の本市阪谷地区に整備した活性化施設「スターランドさかだに」について、国の地域再生の支援措置を受けて、都市と農村との交流や生涯学習、実証農園、体験農園等の拠点施設としての機能を強化することはもとより、国庫補助対象施設の一部を目的外使用し、そばや郷土料理等の飲食提供、地域物産の施設内での直売を可能にすることにより、グリーン・ツーリズムをはじめとする地域の交流人口の拡大や施設経営の改善を図ることとする。

また、計画地域では、今後、この活性化施設を核に周辺の地域資源との協力・連携を強化することで、地域全体の活性化を実現したい。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

（１）中山間地域の交流人口の拡大

自然、農林業、文化、食など様々な地域の資源を活用し、地域の魅力を最大限に発揮することで、交流人口の拡大が期待される。「農的生活」をテーマにした体験学習等は都市在住者の意識の高い部分であり、地元住民と一体となったプログラムは交流を深める絶好の素材だと言える。特に、周辺の宿泊施設や公共施設等を活用した滞在型の交流を目指すことにより、宿泊客の増大が期待される。

県全体では、計画の実現目標に設定した5年後（平成20年）に、年間交流人口を現在よりも10%伸ばすとともに、スローライフを体感する旅行へのニーズの高まりを背景に、滞在型の体験プログラムを研究・開発するなど地域全体の資源を有効活用するグリーン・ツーリズムの取組みを促進することで、交流人口に占める宿泊客の割合を現行の23%から26%にまで高めることとする。

また、計画区域である大野市六呂師エリアでは、計画の実現目標に設定した5年後（平成20年）に、現在よりも10%（2万人）増の約23万人の観光客を見込む。特に、この地

域は、宿泊客の割合が県内の他の中山間地域に比べて低く、今後、「おおの型食・農業・農村ビジョン」に基づく住民の主体的な取組みにより、都市を主眼に置いた農村交流（グリーン・ツーリズム）を推進するとともに、六呂師ハイランドホテルや奥越高原青少年自然の家の宿泊施設およびキャンプ場など周辺の宿泊施設との連携を強化することで、現在の県全体の宿泊客の割合と同じ水準（23.1％）にまで比率を高めることとしたい。

県全体（中山間地域）

（千人）

	H 1 4（H 1 5）	H 2 0	計画最終年度と現在との比較	
日帰り客	2,719 (76.9%)	2,879 (74.0%)	160	106%
宿泊客	817 (23.1%)	1,011 (26.0%)	194	123%
計	3,536 (100.0%)	3,890 (100.0%)	354	110%

大野市

（千人）

		H 1 4 (H 1 5)	H 2 0	計画最終年度と現在との比較	
全 体	日帰り客	8 5 7	9 0 9	5 2	1 0 6 %
	宿 泊 客	9 3	1 1 5	2 2	1 2 3 %
	計	9 5 0	1 , 0 2 4	7 4	1 0 8 %
計 画 区 域	日帰り客	1 6 6 (79.4 %)	1 7 6 (76.9 %)	1 0	1 0 6 %
	宿 泊 客	4 3 (20.6 %)	5 3 (23.1 %)	1 0	1 2 3 %
計		2 0 9 (100.0 %)	2 2 9 (100.0 %)	2 0	1 1 0 %

（計画区域は、六呂師高原および三の峰・赤兎山のエリアで算出＝六呂師エリア）

〔積算根拠〕

- 1 H 1 4 の観光客数：福井県観光客数動態調査に基づく実績値。当計画の基準年となる平成15年の観光客数は現在調査中であるため、平成14年実績と同数を見込む。
- 2 H 2 0 の観光客数：平成16年3月に第4次構造改革特区認定を受けた「福井型エコ・グリーンツーリズム推進特区」申請の際に設定した、本県の中山間地域における観光客の目標値。近隣他府県が設定した目標値を参考に、全体で現行の10%増を見込む。

（2）中山間地域における観光消費額の増加

グリーン・ツーリズムの推進や施設間の連携、地域に存在する地域資源にストーリー性を与えながら組み合わせることなどにより、地域の魅力を高め、都市農村交流に係る観光消費額の増加を目指す。

県全体の中山間地域では、前項で説明した交流人口の増加に伴い、計画目標年である5年後（平成20年）に、現在の観光消費額と比較して、年間18%増の約18億6,200万円の経済効果を見込む。

また、計画区域である大野市六呂師エリアにおいては、特に、県全体の観光消費額と比較

して、「日帰り」の占める割合が非常に高くなっているのが特徴である。今後、「おおの型食・農業・農村ビジョン」に基づく住民の主体的な取り組みにより、都市を主眼に置いた農村交流（グリーン・ツーリズム）を推進するとともに、六呂師ハイランドホテルや奥越高原青少年自然の家の宿泊施設およびキャンプ場など周辺の宿泊施設との連携を強化することで、観光消費額全体に占める「宿泊」の消費額の割合を、全体消費額の1/3程度まで高めることを目標とする。

そこで、計画の実現目標に設定した5年後（平成20年）には、現在の観光消費額より約2,500万円多い年間約2億5,000万円の消費額を見込む。

県全体（中山間地域）

（千円）

	H 1 4 (H 1 5)	H 2 0	計画最終年度と現在との比較	
日帰り	2,779,794 (27.4%)	2,946,581 (24.5%)	166,787	1 0 6 %
宿 泊	7,371,794 (72.6%)	9,067,306 (75.5%)	1,695,512	1 2 3 %
計	10,151,588 (100.0%)	12,013,887 (100.0%)	1,862,299	1 1 8 %

大野市

（千円）

		H 1 4 (H 1 5)	H 2 0	計画最終年度と現在との比較	
全 体	日帰り	389,087	412,432	23,345	1 0 6 %
	宿 泊	305,377	375,614	70,237	1 2 3 %
	計	694,464	788,046	93,582	1 1 3 %
計 画 区 域	日帰り	158,464 (69.4%)	167,972 (66.2%)	9,508	1 0 6 %
	宿 泊	69,771 (30.6%)	85,818 (33.8%)	16,047	1 2 3 %
計		228,235 (100.0%)	253,790 (100.0%)	25,555	1 1 1 %

（ 計画区域は、六呂師高原および三の峰・赤兎山のエリアで算出＝六呂師エリア ）

〔積算根拠〕

- 1 H 1 4 の観光消費額：福井県観光客数動態調査に基づく実績値。当計画の基準年となる平成15年の観光消費額は現在調査中であるため、平成14年実績と同額を見込む。
- 2 H 2 0 の観光消費額：前項の観光客数の増に観光客1人当たりの消費額単価を乗じて得た額。日帰り客の観光消費額は6%増を見込むとともに、観光消費額全体に占める「宿泊」の消費額の割合を、全体消費額の1/3程度まで高めることにより、宿泊客の観光消費額を23%増と見込む。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- | | |
|-------------|----------------------------|
| 1 3 0 0 4 | 補助対象施設の有効活用 |
| 2 1 0 0 0 1 | 市民農園で生産された農作物の販売が可能な範囲の明確化 |
| 2 3 0 0 0 4 | 都市と農山漁村の共生・対流に関する施設の連携強化 |

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

(1) 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組

なし

(2) その他関連する事業

ソフト事業の実施

○ 特定農山村総合支援事業（大野市）

特定農山村法に基づく新たな農林漁業等活性化基盤整備計画に則し、中山間地域の活性化に向けて取り組むソフト活動の計画的な実施に助成し、これらの取組みを安定的・継続的に支援する。

○ 中山間地域等直接支払事業（大野市）

耕作放棄地の増加等により農地の持つ多面的機能の低下が特に懸念されている中山間地域等において、農業生産の維持を図りながら多面的機能を確保するという観点から、基準面積に応じ直接支払事業を実施する。

○ 特産品マーケティングモデル事業（福井県、スターランドさかだに振興会）

中山間地域の活性化施設である「スターランドさかだに」を拠点施設として活動する阪谷有機自然農法研究会が、こだわりをもって栽培した農産物をどのようにして販売に結びつけるのかを検討し、「顔を合わせた食の交流」をコンセプトとして本地域の農産物の新たな流通・販売の確立を目指す。

ハード事業の実施

○ 広域営農団地農道整備事業

奥越地方の生産流通の円滑化を図ることを第1に、大野・勝山両市の農業振興地域における農業生産基盤と近代化施設の整備を一体的に図り、これらの施設を横に連絡させることで大規模生産組織を確立させ、農業振興を目指すとともに一般車両の交通量の緩和を図る。

8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項

なし

別紙

1 支援措置の番号及び名称

1 3 0 0 4 補助対象施設の有効活用

2 当該支援措置を受けようとする者

大野市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

「スターランドさかだに」は、福井県が中山間地域総合整備事業により大野市阪谷地区の活性化を目的とした施設として大野市養道地籍に整備し、平成12年8月にオープンした施設である。施設の管理は、県との管理委託契約に基づき大野市が行い、都市と農村との交流や生涯学習、実証農園や体験農園の設置など、人的交流による中山間地域の活性化のための各種活動を展開している。

大野市は、阪谷地区の自治会長や自治会から推薦を受けた者、地区内各種団体の長などで構成する「スターランドさかだに振興会」の協力の下、当該活動を展開している。主な事業としては、そば打ち体験、郷土料理の普及、農業農村体験イベント、地区内交流のイベント、農業関連の会議や研修等の受入れ、有機農産物の実証試験圃の設置や有機堆肥の製造等が挙げられるほか、当該施設を利用した有機栽培農家グループやそば愛好会等の設立・育成を図っている。

中山間地域特有の寒暖差と気温の日較差の大きい気候の下で栽培されるソバは、その風味や香りに定評があり、有機栽培であることもあいまって、そば打ち体験やソバを使用した郷土料理講習は施設の主要事業となっている。この結果、各種体験や講習だけでなく、そばや郷土料理の味を求め施設を訪れる人が増加しているが、当施設の目的外使用となり、現状では対応できない。

今後、当該支援事業により飲食店を営業し、そばや郷土料理等の飲食提供が可能になることで、グリーン・ツーリズムをはじめとする交流人口が拡大し、地区のさらなる活性化が図られるうえ、施設経営の改善が期待できる。

さらに、ワインをはじめとする地域物産の施設内での直売が可能となれば、市内の既存施設との連携も促進され、観光拠点としての役割も担うことができ、地区の魅力向上とやりがいの醸成、引いては地元農家の所得向上も期待できる。

(支援措置 1 3 0 0 4 に係る添付書類)

1 補助事業者の意見

(福井県の意見)

本地区では、活性化施設を利用した地域活動、都市との交流などが積極的に行われている。

その結果、イベントも定着し、さらに新しい交流活動も行われ入場者数も増えている。

しかし、「環境」や「食」に対する意識の高まりなど社会情勢が変化中、さらに地域活動交流を発展させ、農村の活性化を図ることが重要である。

そのため、本施設の一部を転用し、直売所等として活用することは本地区および市全体の活性化を図る上で非常に有効である。

(活性化施設の概要)

事業名	中山間地域総合整備事業
事業目的	中山間地域の農業生産基盤の整備を効率的に行うとともに、農村生活環境基盤等の整備を併せて総合的に行うことにより、農業・農村の活性化を図り、もって地域における定住の促進、国土・環境の保全等に資する。
事業工期	平成 1 1 年 9 月 ~ 平成 1 2 年 4 月
所在地	福井県大野市菟道 (大野市阪谷地区)
事業主体	福井県
施設名称	スターランドさかだに
建築面積	7 8 5 m ²
延床面積	7 8 5 m ²
敷地面積	7 , 5 1 9 m ²
建物構造	木造平屋建
建設費	1 8 6 , 0 0 0 千円 (m ² 単価 : 2 3 6 千円 / m ²)
財源内訳	国庫 1 0 2 , 3 0 0 千円 (5 5 / 1 0 0) 県費 5 5 , 8 0 0 千円 (3 0 / 1 0 0) 市費 2 7 , 9 0 0 千円 (1 5 / 1 0 0)
供用開始日	平成 1 2 年 8 月 1 日
管理主体	大野市
管理委託契約日	平成 1 2 年 7 月 7 日

2 当該施設における補助目的を取り巻く社会経済情勢の変化

○施設「スターランドさかだに」の整備目的

本施設は、担い手農家の育成や農産物の加工・研究・開発、地域の農家と非農家との交流の場など地域内交流を主体とした中山間地域の活性化を目的に、平成 9 年度に施設計画を策定し、平成 1 1 年度に建設着手、平成 1 2 年 8 月から供用開始された。

本施設は、大野市阪谷地区の田園地帯のほぼ中央にあり、近くの六呂師高原一帯には、牧場、スキー場、自然公園、県立奥越高原青少年自然の家など自然活動、野外活動の拠点施設がある。そこで、阪谷地区では、都市住民が参加できる体験農園施設を目指した「スターランドさかだに」を計画、その中核施設として活性化施設を位置づけ、都市住民との交流や若者が常住できる魅力あるまちづくりを目指すこととなった。

当初は、施設管理運営のための収入源としてオートキャンプ場等の整備も計画していたが、日帰り嗜好へと旅行形態の変化から、これらに代わる新たな収入源の確保を図る必要がある。

また、施設の管理は、県との管理委託契約に基づき大野市が行い、都市と農村の交流や生涯学習、実証農園や体験農園の設置など、人的交流による中山間地域の活性化のための各種

活動を展開し、また、阪谷地区の自治会長や自治会から推薦を受けた者、地区内各種団体の長などで構成する「スターランドさかだに振興会」の協力の下各種活動を展開している。

当該地域特有の寒暖差と気温の日較差の大きい気候の下で有機栽培されている「そば」は、その風味や香りに定評があり、「そば打ち体験」や料理講習は人気がある。さらにこの「そば」や「郷土料理」を求めて訪れる人も多いが、現状では特産品の提供ができないことから、来訪者よりこれらの販売等にかかる施設の整備が求められている。

このことから、当該施設の一部を転用し、直売所や特産品を提供できる施設として活用することにより、地域の活性化と地域内外のとの交流拡大、グリーン・ツーリズムの推進が期待される。

○社会情勢等の変化

大野市は、盆地・山岳地帯の地理的条件（山林：８３％）を活かした農林業を基幹産業としており、県下でも高い農業生産額を維持していたが、農産物の価格低迷と生産コストの増加、地域間競争の激化、後継者不足等により農業生産活動等が停滞していたことから、当該阪谷地区において、担い手育成等の地域内交流を主体に活性化を図るため、平成８年に本事業が着工された。

その後、国の農業政策が大きく転換され、平成１０年１２月の農政改革大綱・プログラム「都市と農村の交流の促進と市民農園の普及、都市農業の振興・発展等」の策定、平成１１年７月の食料・農業・農村基本法に基づく基本計画「都市と農村の交流等」の策定、平成１４年５月の食と農の再生プラン「都市と農山漁村の共生・対流、農山漁村の魅力の向上等」の策定などによる、《農村と都市との交流・共生》に関する施策が推進されることとなった。

一方、福井県では、知事のマニフェストの一つに掲げる「福井型学び体験する旅」のエコ・ツーリズムを推進する「福井型エコ・グリーンツーリズム推進特区」の計画を申請、平成１６年３月に国の認定を受けており、大野市では、平成１５年６月に「おおの型食・農業・農村ビジョン」の策定や、ＮＰＯ法人「田んぼの学校越前大野」による農業体験・環境学習・都市住民との交流の促進、また近隣の勝山市・和泉村まで管轄するＪＡの大型合併を契機に特産品（さといも、そば、ぶどう等）の都市部への販売強化、さらには平成１７年２月に合併される大野市・和泉村の合併協議会の基本方針には「豊富な地域資源を活かした街づくり」掲げるなど、地方においても《農村と都市との交流・共生》に関する施策等が着実に推進されている。

また、平成１１年４月に開通した「中部縦貫自動車道油坂峠道路」、東海北陸自動車道の整備により、主に名古屋圏からの観光客は平成１０年度と比較し、２５万人急増している実態がある。

このように、典型的な中山間地域である福井県大野市においては、名古屋圏に隣接していることもあり、社会的・経済的・政治的転換期の中で、本施設を計画した時点に比べ、著しい社会経済情勢の変化が認められる。（参考資料１参照）

「スターランドさかだに」の整備に当たっては、当初、中山間地域の活性化を図るため、担い手農家育成のための農業技術講習会、地域住民交流活動等地域内交流を主体とした施設利用計画を立てたが、その後の社会経済情勢の変化により、都市部からの利用人口が急増し、全日本そば打ち名人大会等の都市との交流に関する施設利用にシフトしてきている。

施設の全体利用者数は、体験農園での実習など都市部からの利用人口が増加していることもあり、供用開始時点に比べて増加傾向にあるが、計画利用人員までは達していない。

特に、研修室の利用実態は、地域住民を主体とした当初計画に比べて、全体の利用人数に差は見られないものの、栽培研修、農産物加工実習等地域内交流を主体とした研修室、農産物加工実習室の利用人数は減少し、反面、地域外利用人数の増加により、広いスペースを持った多目的ホールでの活動に移行している。

○有効活用の必要性

平成12年8月の供用開始後、活性化施設全体の利用人口は増加傾向にあるが、社会経済情勢の変化により都市部からの利用者が大半を占めており、当初計画と比較して、施設の利用形態は変化してきている。

施設を利用する都市住民は、本施設において農村住民との交流を行うとともに、特産物を主体とした食事や販売を求めており、また地域住民・生産者も都市住民との交流による施設の有効利用を期待している。

そこで、本施設の今後の利用方法は、「さといも、そば、ぶどう・ワイン等地域特産物を最大限に活かした、郷土料理の奏でる暖かい奥越自然のいやし」を全国に発信し、主な目的を地域内交流から地域外の都市との交流へ移行するため、利用の減少している「農産物加工実習室」を飲食所の調理室に、「研修室2」を飲食ホール、直売所として一定の期間利用して、それ以外の期間は従来どおりの施設利用としたい。
(参考資料2 参照)

3 当該施設における最近の状況

計画利用人数

4,300人

最近3年間の利用状況

平成13年度	2,208人(地域活性化	912人、都市農村交流1,296人)
平成14年度	3,149人(地域活性化	750人、都市農村交流2,399人)
平成15年度	3,365人(地域活性化1,831人、都市農村交流1,534人)	

最近3年間の管理運営費の支出状況

平成13年度	11,309千円
平成14年度	4,530千円
平成15年度	3,283千円

地元の意見等

計画概要を地元へ提示し、市担当者と同席の上意見を聴き取る。

その結果、計画の内容に従い事業を実施したい旨の回答を得ている。

4 補助対象施設の現状

県から当該施設の管理委託を受けた大野市が適正に管理している。

また、「スターランドさかだに」では、年間入場者数が3,000人を超え、施設を活用したそば打ち体験や伝統料理講習など各種イベントも定着してきている。また、EMぼかしを使った野菜の有機栽培の講習等の新たなイベントにも取り組むなど、スイカやさつまいも、にんじんなどの有機栽培による体験農園も好評を得ている。

このように、当該施設では、地域住民と協力し、イベントや農業体験活動など地域活性化を図るための各種活動に積極的に取り組んでいる。

しかし、農産物加工実習室については、施設全館の利用が都市と農村の交流にシフトしてきていることから、地域住民主体の実習を目的に整備した当該施設の利用が減少している。

また、研修室については現地体験型栽培研修にシフトしてきていること、団体での研修が多く小規模な当該施設では限界があることから、利用が鈍化している。

(EM菌を米ヌカなどにいれて、EM菌を大量にふやした粉を「EMぼかし」という。このEMぼかしを生ゴミにふりかけて、1～2週間おくとにおいのしない有機肥料になる。)

5 転用の必要性

「スターランドさかだに」を取り巻く社会情勢等が変化する中で、当該施設では、有機農産物や地域物産の販売を行うためのブースを施設内に設け、施設利用者のニーズ等に的確に対応していく必要がある。

そこで、地域外の都市との交流を促進し地域の活性化を図るために、「農産物加工実習室」および「研修室2」を改修し、そばや郷土料理を調理販売するためのスペースを設置する必要がある。

（施設改修等についての考え方）

「農産物加工実習室」の調理室への転用については、現在設置されている器具・機材の撤去や新たな設備導入の必要はないと考えており、既存の設備の使用により対応する予定である。また、「研修室2」については、床がフローリングであるため、飲食用のテーブルを設置するのみであり、特別な改修は考えていない。

具体的には、多目的ホールと農産物加工実習室の間の引戸を壁にし、農産物加工実習室と研修室2の引戸をカウンターにするなどの改修を考えている。また、特産物、余剰農産物等の直売ブースについては、移動可能な棚を設置し対応する予定である。

なお、「農産物加工実習室」は調理室としての機能も兼ね備えているので、飲食物の販売営業を行わないときは農産物の加工実習を行うとともに、「研修室2」はテーブルを置くだけで、少人数を対象とした研修活動を行う場合はテーブルを片付け研修に利用することとし、現在の「農産物加工実習室」と「研修室2」の機能はそのまま残しておく。

具体的には、飲食店は週末中心の営業を考えており、平日の、例えば火曜日を加工実習室、研修室として定期的に利用するなどを考えている。

6 転用の時期

平成18年4月

（転用までのスケジュール）

- ・平成16年度：飲食物の提供や地域物産の販売を行うために必要な諸手続きについて、関係機関（保健所等）との協議
- ・平成17年度：関係機関の指導に基づき施設の改修を行うとともに、飲食物提供のための営業許可を取得
- ・平成18年度：飲食物の提供を開始

7 転用の相手方

大野市

8 転用の形態（譲渡・貸与の別、有償・無償の別）

平成16年度中に当該施設について、県から大野市への無償譲渡の手続きを進める。

9 転用後の施設の目的、利用計画等

従来の体験施設としての機能は多目的ホールに残しておき、新たに飲食業の許可を取得してそばや郷土料理を味わうことのできるスペースおよび有機農産物や地域物産の販売が可能になるスペースを設ける。

関係法令に基づく手続きについては、本年10月頃から飲食店の営業主体についても関係

機関等の指導を得ながら進めて行く予定である。具体的には、第3セクターや地域住民と連携した団体を考えており、地域に根付いた活動となるよう考えている。飲食店の許可については、奥越健康福祉センター（保健所）に相談を行っている。また、調理師有資格者の確保はされている。

なお、当該施設を転用するに当たっては、施設の管理規約等を定めるなど、当初の目的に沿った従来の利用に支障が生じないための措置を講じる。

10 転用により期待される効果

今後、そばや郷土料理等の飲食提供が可能になることで、グリーン・ツーリズムをはじめとする交流人口が拡大し、当該施設はもとより地域全体のさらなる活性化が図られる。

さらに、施設内でのワインをはじめとする地域物産品の直売が可能となれば、市内の既存施設（阪谷地区内にある、白山ワイナリー、ミルク工房奥越前。地区外では大野市内の（株）平成大野屋、大野市総合農場、みそ加工施設等の施設）との連携も促進されるとともに、これまで各施設でしか販売されていなかった農産物加工製品等を本施設で販売することが可能になることによって、地域物産品の知名度アップが期待できる。

また、来訪者が本施設を観光の拠点にしながら、他の施設も訪問することによって地域全体の魅力向上につながるだけでなく、農業者のやりがいの醸成、ひいては地元農家の所得向上も期待できる。

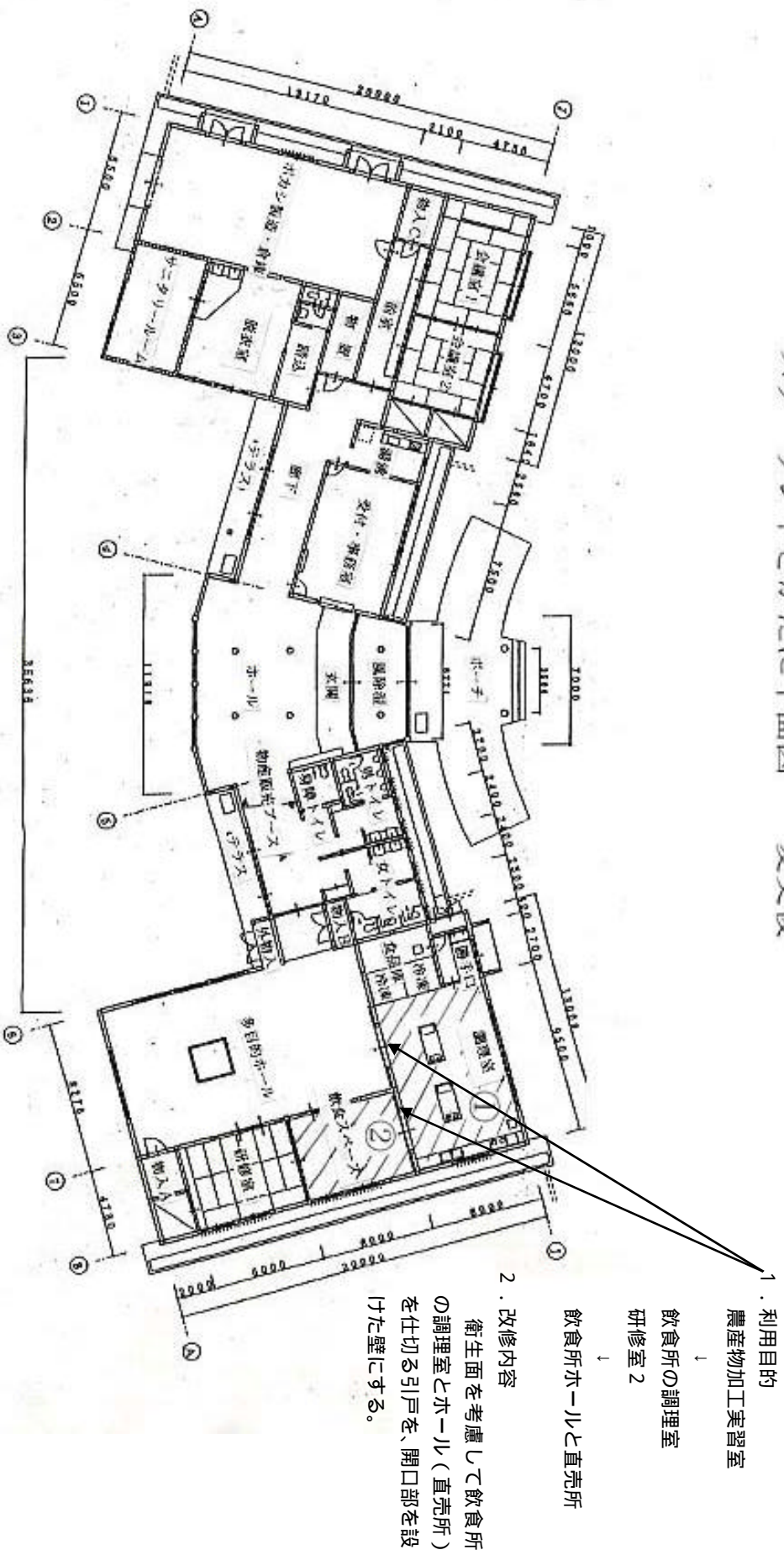
(参考資料 1)

年 度	国の動き	地方公共団体の動き	スターラン ドさかだに
H10	○ 農政改革大綱、農政改革プログラム (H10.12 月) (農水省) [都市と農村の交流の促進と市民農園の普及] ・グリーン・ツーリズムが国民運動として定着するようソフト、ハード両面から条件を整備 ・市民農園・日本型クラインガルデンの広範な整備、普及 [都市農業の振興・発展] ・都市住民に対する新鮮な農産物の供給、農業体験等適切な振興策の検討 ○ アクセス道路の整備 (国交省) ・東海北陸自動車道白鳥 IC ～ 宮 JCT 全線開通 (H10.12 月)	○ 新しい福井型農業農村の展開 (H7 ～ H12) (福井県) ○ 第 3 次大野市総合計画 (H8 ～ H12) (大野市) - 福井県、大野市ともに地域・集落営農システムを確立するため、効率的・安定的な大規模個別経営や農業法人を育成することとし、農業農村整備事業 (ハード) と併せ、担い手育成に関する事業 (ソフト) を展開	詳細設計
H11	○ アクセス道路の整備 (国土交通省) ・中部縦貫自動車道路白鳥 IC ～ 油坂第 3 トンネル油坂峠料金所開通 (H11.11 月) ・名古屋方面からの集客増 (主要施設入込状況 H10 170 万人 → H14 195 万人 25 万人の増) ○ 食料・農業・農村基本法 (H11.7 月) (農水省) ・都市と農村との間の交流促進 ○ 食料・農業・農村基本計画 (H12.3 月) (農水省) [都市と農村の交流等] ・滞在型の余暇活動の推進、農産物の産地直売を契機とする農業体験等の促進、交流機会の確保や交流の場の整備 ・新鮮な農産物の供給、農業体験等の場の提供、農産物直売施設の整備等	○ 「田んぼの学校 YOEMON グループ」設立 (NPO 田んぼの学校越前大野の前身) ・農業農村が持つ多面的機能とそこに育まれた豊かな人間性を活用し、参加型体験学習教育を中心とした活動を展開。基本理念「若男女が一緒に参加できる農業体験を通して、支えあう心 (福祉)、自然を守る心 (環境) を育ててもらいたい」のもと、年 6 回程度の農村体験を中心としたイベント活動と郷土料理や手打ちそば等の本格田舎料理の研修活動を行っている。当時青少年犯罪や不登校問題等社会的課題が増加傾向にある中、当グループの取り組みが評価され、平成 11 年度社団法人農村環境整備センター主催の「第 1 回田んぼの学校企画コンテスト」において金賞を受賞、平成 13 年全国で始めて「田んぼの学校」として NPO 認証を受けている。	工事着工
H12		○ 21 世紀福井の食料・農業・農村ビジョン (H12.3) (福井県) 「農山漁村の豊かな資源を活かしたグリーン・ツーリズム等交流の推進」を柱に交流ターミナルの整備 70 箇所、体験民宿の登録 90 軒を平成 22 年目標とした。	工事完了 (H12.4) 管理開始 (H12.8)
H13	○ 食料の安定供給と美しい国づくりに向けた重点プラン (H13.8 月) ・都市と農山漁村の共生 対流	○ NPO 法人「田んぼの学校越前大野」(H13.4 月法人格取得) (NPO) ・「田んぼの学校茶屋」を開く一方で、「田んぼの自然観察会」や「そば打ち体験」など幅広く活動 (講師としても活躍)	
H14	○ 食と農の再生プラン (H14.5 月) ・都市と農山漁村の共生 対流 - 新たなライフスタイルの実現 - 農山漁村の魅力の向上、都市と農山漁村のつながりの強化への取り組み	○ JA と連携したグリーン・ツーリズムの推進 (H14 ～) (JA) ・県ではグリーン・ツーリズム [県内] PRCD-ROM 作成配布、体験民宿サミットの展開、また大野市を含む 3 市村の JA 合併による JA テラル越前では、地場野菜グループによる直売やホムベジでの県外への情報発信を行っている。	
H15	○ 土地改良長期計画 (H15.10 月) ・共生 - 人と自然、都市と農村の共生を実現 ○ 食料・農業・農村基本法の見直し (H15.12 月 ～) ・都市と農山漁村の共生 対流の推進	○ 大野市・和泉村合併協議会 (H15.10) (大野市・和泉村) ・平成 17 年 2 月の合併を控え、地域特性を活かした農林業の展開、観光との連携、多彩な資源を活かした観光の推進」を柱に、東海からの福井への玄関口であり、新しい体験型観光の創出の契機となる資源が豊富、既存関係資源との連携など観光戦略を推進するため、中部縦貫自動車道等アクセス道路を整備することとしている。 ○ 「おおの型食・農業・農村ビジョン」(H15.6) (大野市) ・都市と農村との共生を掲げ、都市を主眼に置いた農村交流・グリーン・ツーリズムを推進 ○ 「福井型エコ・グリーンツーリズム推進特区」承認 (H16.3) (福井県) ・福井型学び体験する旅であるエコ・グリーンツーリズムを推進するため、農家民宿における消防設備設置要件の緩和を行う	



スターランドさかだに平面図 変更後

。飲食所、直売所として活用。



別紙

1 支援措置の番号及び名称

2 1 0 0 0 1 市民農園で生産された農作物の販売が可能な範囲の明確化

2 当該支援措置を受けようとする者

大野市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

平成15年に、中山間地域農村活性化施設「スターランドさかだに」内に市民農園整備促進法に基づく貸付農園、生涯学習としての園芸やガーデニング、子どもたちの情操教育としての農作業体験など、市街地住民自らが市民農園で作物を育てる環境を整えてきた。

「市民農園の整備の推進に関する留意事項について」(平成16年3月26日付け15農振第2643号農村振興局長通知)の通知に基づき、貸付農園で農作物の栽培方法を教える地元の農業者と農作物を栽培する借受者との交流だけではなく、収穫祭開催時に余剰農作物を来訪者等に販売することにより、地元住民と借受者、消費者との人的交流の拡大と地域の活性化が期待できる。

さらには、市民農園を利用する都市住民や地元住民、消費者等が、生産から消費まで通じた活動を学ぶことにより、地産地消、有機農作物、安心・安全な農作物の理解を深めることができる。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

2 3 0 0 0 4 都市と農山漁村の共生・対流に関する施設の連携強化

2 当該支援措置を受けようとする者

大野市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

「スターランドさかだに」が所在する阪谷地区を中心とする六呂師エリアは、中山間地域特有の田園風景が広がる風光明媚な地区である。

当該地区には、ヤマブドウを原料としたワイナリー、地元産牛乳を使ったアイスクリームやカッテージチーズづくり体験のできる福井県乳製品加工体験施設（ミルク工房奥越前）をはじめ、福井県自然保護センター、福井県立奥越高原青少年自然の家、六呂師高原スキー場、奥越高原牧場、バーベキュー施設、ミニ動物園などの施設が点在している。

また、大野市一円にも、麻那姫湖キャンプ場を始めとするさまざまな施設が点在し、自然を求めて、あるいはグリーン・ツーリズムによりこうした施設を利用するために都市から訪れる交流人口が年々増えている。

しかしながら、六呂師エリアの施設は現在、施設ごとに、農業を通したグリーン・ツーリズムや、農業だけでなく水辺、里山も含めた環境全体を通したエコ・ツーリズムなどの活動を展開しているにとどまり、当該エリアに1日滞在できるようツーリズムコースの設定など各施設間の連携は図られていない。

また、農業体験など、都市住民にグリーン・ツーリズム体験の場を提供している「スターランドさかだに」では、グリーン・ツーリズム促進の立場から平成13年度に特定農山村地域市町村活動支援事業による特定農山村総合支援基金を活用した地域間交流促進活動、エコ・ツーリズム支援として福井県からの計画づくりアドバイス、地元産農作物の販売支援策として平成15年度から福井県特産品マーケティングモデル事業を活用した販売促進活動をそれぞれ展開しているが、今後はこれらの活動に一貫性を持たせ一体的に取り組む必要もある。

そこで、総合的に人的交流と地域の活性化を図るという地域全体の目標を達成するために、関連施策に関する情報を提供するという今回の支援措置を活用しつつ、六呂師エリア一円に集中する農林関係、環境関係、教育関係のそれぞれの施設を連携させながら、地域間交流の促進を図る各種活動を一体的に展開し、地域の活性化を図っていきたい。